

# エコけんニュース

No. 43 2003. 2.

連絡先 NPO法人エコけん事務局 ☎092-943-0129 e-mail 7dSlhuix-board@nngo.jp

発行責任者 清水佳香

http://www10.ocn.ne.jp/~ecoken/

## プラスチック回収は

# 3/9 (日)

### \*第2日曜日

## 舞の里小学校玄関前 9:00~11:00

※ 雨天：舞小体育館前にて回収。

内容物を取り出して、水気を切って持ってきて下さい。

## 2月9日(日)プラスチック回収報告

ご協力ありがとうございました。

参加世帯数						回収量	カンパ
220						85ふくろ (632kg)	12,712 円
1丁目	2丁目	3丁目	4丁目	5丁目	その他		
27世帯	12世帯	12世帯	48世帯	83世帯	38世帯		



## プラ回ファイナルのお知らせ



1999年12月に始めました、エコけんのプラスチック自主回収。次回3月の回収をもって、終了させていただきます。(全37回)

ゼロからの苦しい出発の中、みなさま方には、深いご理解とご協力をいただき、これまで続けることができました。また、4月からモデル3校区において、市分別回収の新品目に加わり、継続回収となりましたのも、みなさんの後押しのおかげです。ありがとうございました。

最終回収日には、カンパ金からの「1度でも多くプラスチック回収を行うための積立金」を使わせていただき、感謝の気持ちをこめて「豚汁会」を行います。お椀とお箸をお持ちくださると助かります。

豚汁は多めに用意しておりますが、無くなり次第終了とさせていただきます。お早めにおこしください。

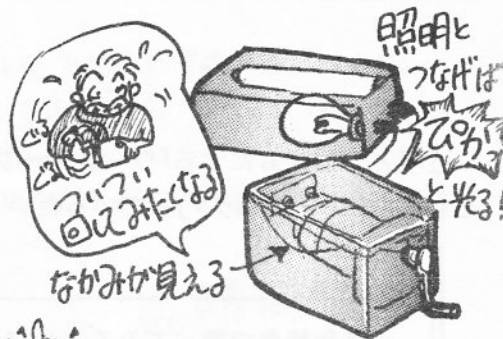
「おいしいびん牛乳」の伊都牛乳さんもご協力くださり、試飲会をしてくださるそうです。



## 省エネ実験セット（手回し発電機）貸し出します。

実体験支援部会でのお試しグッズが、もう一つ増えました。手回し発電機で、照明器具を発光させたりする実験セットです。

壊れにくく、子どもでも簡単に発電できるので、電気をエネルギーとして実感できます。どうしたら省エネになるか考える、きっかけづくりに最適かも。



他にエコけん所有のお試しグッズ

ごみけし君



・エネナビ君



・エコタップ

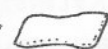


・エコワット

洗濯リング



・エコナブキン



・スピューナー



など

すぐにお貸しできる物もありますので、興味のある方は事務局までご連絡ください。

## 「配布会員」さんからの質問にお答えします。

Q. 4月から配布会員がニュースを届ける先は、ニュース会員宅ですか？



A. いいえ。届け先指定は全くありません。配布会員さんの配りやすいところに20枚程度お願いします。

Q. 会費が必要になる「エコけんニュース」が、申し込んでいないのに郵便受けに入っていたらびっくりされませんか？

A. はい。確かにそうですね。4月以降、お心当たりがないのに、「エコけんニュース」が届けられていた方は、お近くにご厚意の配布会員さんがおられる、とご理解下さい。また、それは配布会員さんのボランティアによるものですので、定期的に届く確約は無いものをご承知おきお願いします。「エコけんニュース」のお届けがご迷惑の場合は、誠に申し訳ありませんが、エコけん事務局へご連絡下さい。



現在、配布会員さんお届け予定のあたり  
舞の里3丁目11 5丁目23～25

配布会員・ニュース会員・賛助会員募集中です。

# ワークショップってなあに？

～前編～

## 出前講座部会

近頃ときどき耳にする「ワークショップ」という言葉。知っているようでよく分からない…。そもそも「ワークショップ」っていったいどんなものなのでしょう。

英和辞典で調べてみると、ワークショップとは研究会・討論会・研修会とありました。そこで、これまで講座や授業などを手がけてきたエコけん出前講座部会も、いろいろなところで取り入れ始められた「ワークショップ」という学びのスタイルを、講座を受けて体験してみることにしました。

これまで私たちにとって身近な学びの形においては、程度の差こそあれ、知識や情報・技術を授ける人と受け取る人の役割が比較的明確でした。それは、どちらかという、系統だった学問的学びや、経験的学びに有効だったといえます。



今までの学びのイメージ

しかし現実の生活の中の課題には、答えが正しいかどうか、または正しいといえる答えがあるのかさえ、よく分からないものもたくさんあります。それらに対し、よりよい解決の糸口を探るひとつの方法として、「ワークショップ」という形が有効らしいのです。



具体的には、課題に対し参加者全員で主体的に知恵を出し合い、他の人の意見や発想から互いに学ぶ「学び合い」が基本です。

そしてその学び合いによって、新たな発見が生まれる事もあります。

このような創造的な活動から解決を導こうと試みる、それが「ワークショップ」なのだ、といえるようです。

実際にワークショップに参加してみると、今までとはちょっと違った、なかなか楽しい学びであることが分かりました。そして、この「ワークショップ」が、今日的課題解決の場に取り入れられ始めている訳が、少し分かった気がしました。



剪定枝や草を利用したい、と始めた『森の土』づくり。それは、生ごみの資源化から比べれば、ずいぶん「静かな」作業でした。気になるにおいも虫もなく、自分の気が向いた時や、都合の良い時に積んだり袋に入れれば良かったからです。

連載中、他の方に教えていただいた方法です。

### その① 庭の片隅に積んでおく。

2年程度たてば下の方にかなり良好な「森の土」が。



### その② 浅く掘った穴に埋める。

1年もしないうちに、土中に腐葉土数センチの層が。



ビニール袋もよし、ガーデンバックもよし、そして他の方法でもよし。今回、自分ちで取り入れられそうな方法が、いくつか見つかりました。これも、何はともあれ、じたばたと始めてみたおかげです。みなさん、どうもありがとうございました。

庭の木々、草花そして土を眺めつつ... エコまま



### ～事務局より～

❖ 出前講座部会は、1月23日（木）手回し発電機を用いて省エネ学習会を実施しました。エコけんニュースに間に合わず、ロコミや「よかくさ古賀」のホームページへの投稿によるお知らせとなってしまいました。ご参加の方には好評でしたので、またやってみようと思っています。

### ❖❖❖❖❖❖ 剪定枝堆肥化部会からのお知らせ ❖❖❖❖❖❖

エコけんでは、ご登録いただいた方の剪定枝を受け入れ、腐葉土にしてきました。その受け入れを、今月（2月）をもって終了させていただきます。ご協力いただいたみなさま、長い間ありがとうございました。